

岡山市障害者自立支援協議会



# こども支援部会 令和5年度 活動報告

児童発達支援センターまな星  
吉岡 秀美

# こども支援部会 目的

(令和5年度)



## ●こども支援部会の目的

- こどもを取り巻く福祉サービス事業所及び多職種の人材との連携と質の向上。
- こどもの抱える地域課題を抽出し、解決に導く。
- こども、家族のために情報発信を行う。

★岡山市のこどもに関わる福祉関係者が集い、話し合い、こどもが楽しく育つ地域にする！



## ●活動報告

★定例会は奇数月の第3水曜日10:00～11:30  
岡山市でこどもに関わりのある、福祉サービス事業所  
職員、相談支援専門員等が集まり、こどもに関わる  
地域課題の抽出と解決にむけた話し合いを行う。

1. ホームページの活用（事業所紹介・空き情報）
2. こどもに関する研修会の開催
3. 福祉サービス事業所の支援方法や支援ツールの紹介
4. 事例検討や事業所内課題についてのグループワーク 等

# こども支援部会 活動報告 (運営方法の変更点)

## (令和5年度)

### 実施体制の見直し

- ・市内の4つの児童発達支援センターとこども支援部会立ち上げメンバーのひまわりケアステーション、岡山市自立支援協議会事務局をメンバーに令和5年度の計画をたて、実施した。令和5年12月から検討メンバーに入っていなかったかなりや学園を加え、市内5センターとひまわりケアステーション、協議会事務局体制とした。
- ・こども支援部会を夜間帯から中間帯に変更した。

### 広報の変更

- ・また、こども支援部会の広報を、岡山自立支援協議会を通じて岡山市事業者指導課を通じて各事業体へ案内してもらった。
- ・その影響もあってか、参加者が80～100名程度に増加した。
- ・会場も岡山市灘崎文化センターの大ホールに変更した。



# こども支援部会 活動報告

## (令和5年度)



1. ホームページの活用（事業所紹介・空き情報）  
こども支援部会参加事業所の空き情報をホームページにアップした。
2. こどもに関する研修会の開催  
こども支援部会を年6回開催した。  
(詳細は次のスライド)
3. 福祉サービス事業所の支援方法や支援ツールの紹介  
事業所の紹介等を行った。
4. 事例検討や事業所内課題についてのグループワーク等  
参加者が数人のグループになり、事例検討を行ったり、  
課題を出し合い、参加者の意見をもらった。

日時	会場	内容
5月17日(水) 10:00-11:30	旭川敬老園 デイサービスセンター	「各事業所の紹介」 センターと児発との違いは？それぞれの役割について理解を深め、お互いの事業所を知る機会に。
7月19日(水) 10:00-11:30	旭川敬老園 デイサービスセンター	「児発・放デイの運営ガイドライン」 新カリキュラムとなった児発管研修の内容から、運営に関連した大事なポイントを解説します みどり学園:杉安園長から講義後、グループワーク
9月20日(水) 10:00-11:30	岡山市 灘崎文化センター	「要支援家庭に出会ったら」 子どものサポート、親支援も必須であるケースで、事業所が知っておくべき関係機関先、法律根拠、支援の先を見据えたが対応とは・・・ まな星:辻実施責任者から講義後、グループワーク
11月15日(水) 10:00-11:30	岡山市灘崎文化センター	「情報共有どうしていますか」 どうして事後カンファレンスがいるの？保護者との共有はどのように大切なのか、事例を通して考えていきます 旭川児童院通園センター:福田管理者から講義後、グループワーク。
1月17日(水) 10:00-11:30	岡山市灘崎文化センター	「事例から学ぶ -豊かな成人期(20代)を迎えるために-」 今支援しているお子さんの将来どんな風に思い描いていますか？二十歳になった時、どんな豊かな生活ができていのでしょうか。今、私たちにできることを考えてみませんか。 1) 発達障害のある人への支援 -大人の事例を通して- 岡山市発達障害者支援センター (ひか☆りんく) 松本 麻里 氏 2) 医療的ケア児への支援 岡山市障害者基幹相談支援センター 川西 義光 氏 グループワーク
3月6日(水) 10:00-11:30	岡山市灘崎文化センター	「今年度のふりかえり」 こどもを取り巻く支援体制に係る地域課題を整理し、次年度に向けて協議します グループ毎に意見交換し、地域課題等を集約。

# 3月の話し合いででた地域課題と思われる内容

## 1. 相談支援専門員とのつながり方

- ・ 相談支援専門員さんについていただきたいお子様が沢山います。
- ・ 相談支援事業所と繋がっていない利用者が多く、進学に関すること、家庭での対応など、どこに相談すればいいか悩まれているケースがある。
- ・ 岡山市は7割セルフプランと言われている要支援児が、まずは相談支援業者につながる事が、包括支援のスタートにたつ上でも必要なのではないのでしょうか。
- ・ 相談支援事業所に空きがないところが多く、新規受け入れが難しい。
- ・ 相談支援専門員さんをつけている児が少ない。

## 2. 小中学校との連携方法に困っている

- ・ 学校との連携の仕方に困ることがあります。  
幼稚園や保育園など未就学児が通う施設とは、ある程度連携を取ることができるが、小学校・中学校・高校とは、連携が難しい。
- ・ 連携を作る機会が少ない。
- ・ 教育委員会との情報共有の仕方が様々、教育委員会の対応が違いすぎるため、施設側も対応に混乱することがあった。
- ・ 保育所等訪問支援について、学校の認識が低く、サービスを利用したくてもできない場合が多い。

## 3. 地域情報・資源の情報収集や活用方法を知りたい

- ・ 支援者が地域資源の情報調達が出来ていない。
- ・ 地域により事業所にバラつきがあるので、利用希望があっても難しい。
- ・ 地域へ移行していくための地域とのつながり。
- ・ 地域の学校や園との交流の場が少ない。
- ・ 保健師や医療関係機関との連携をどのように進めていけば良いか教えてほしい。
- ・ 医療ケア終了後の利用事業所について
- ・ 事業所の認知を広げるマップを作成するなど、セルフプランの人を早く早期療育へつなげてあげたい。
- ・ 不登校児の利用できる地域資源について。

## 4. 特性や年齢に応じた関わり方が知りたい

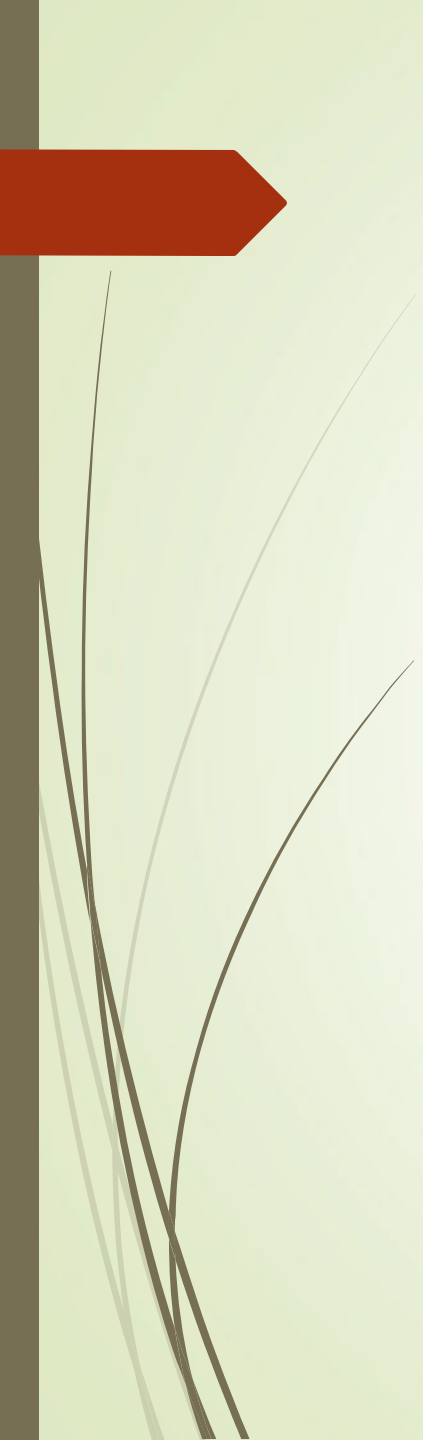
- ・ 子どもを真ん中にして、保護者、学校、事業所が同じ方向を向くためのヒントがあったらいいなと思います。
- ・ 学校や保育園との連携の薄さ（学校によって違う）があり、宿題への取り組み方、教え方等、わからないことがある。
- ・ 中高生の放デイの利用について、実情や必要性、方向性について学びたい。
- ・ インクルーシブ的な取り組みについて知りたい。
- ・ 不登校になりかけている子どもの対応について。
- ・ 思春期の性について、対応など。

## 5. 医的ケア児を受け入れる事業所がない

- ・ 動ける医的ケア児を受け入れるところが少ない。重症心身障がい児を受け入れる専門の事業所は、寝たきりの方で定員がいっぱい。
- ・ （重症児）入浴や延長、送迎の希望があっても、応えようとするほど職員が疲弊し、運営が厳しくなる。
- ・ 重症児同士の家族の結束力に比べ、そうでない医的ケア児の家族は情報が得られにくい。

## 6. 職員のメンタルヘルスをサポート、対応力向上、他

- ・ 特性で暴言や暴力がある場合、職員への心理的負担があります。そのケアをどうすればいいか、管理者として課題に思っています。
- ・ 保護者からの苦情対応について。
- ・ 虐待に直面した時の対処法、暴力をふるう利用者への対応。
- ・ 他事業所ともう少し関わりが持てたら情報共有ができると思います。
- ・ 就学について、申請の流れや実際どのようにクラス判定しているのかを知りたい。
- ・ 保護者がなかなか学校に行かせず、体調不良や精神的に病んでいるからという理由で、話し合いや相談支援にのろうとしない場合の対処。



ご清聴ありがとうございました。